

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel: 997-2189 メール: airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



2009年に経済産業省の『近代化産業遺産』に認定された釣島灯台は、明治6年から今日まで140年近くに亘り灯され続けています。

大開催!



西瀬戸の島々をめぐる
忽那ロマン探訪クルージング

『忽那ロマン探訪』を謳う松山離島振興協会では、今秋、西瀬戸の島々をめぐるクルージングを企画しています。今回のクルージングでは初めて、忽那諸島海域を飛び出し、NHKの大河ドラマ『平清盛』の舞台である広島県域の「音戸の瀬戸」や「倉橋島」、山口県域の「柱島」まで足を延ばす広大なクルージング行程を計画中です。「音戸の瀬戸」は、清盛が一日にして開削したという伝説が残る呉市本土と正面の音戸町倉橋島との間の海峡のことで、九十mの海峡幅のうち可航できる幅はわずか六十mと狭小ですが、一日の通行船舶量は約七百隻もあり、松山―呉・広島間のフェリーやスーパージェットも行き来する瀬戸内海のスクランブル交差点のような大にぎわいの場所です。また、山口県岩国市の一部である「柱島」は、本紙二〇一一夏号でもご紹介しましたが、かつては忽那七島の一つに数えられた時代もある、私たちにとって身近な島で、「倉橋島」などとともに帆船時代における海上交通の要衝でした。この秋のクルージング・ツアーでは、こうした中世以降の瀬戸内の海路の成り立ちの歴史を紐解き、忽那諸島との位置関係を肌で感じ、忽那の島々の民俗や忽那水軍の歴史にもふれていただきます。行程の最後には『海の貴婦人』とも称される石造りの「釣島灯台」も見学いただきたいと思っています。

協会主催の『忽那ロマン探訪クルージング』は、十月十四日、日曜日の開催です。行程は、朝八時三十分松山観光港を出港し、音戸の瀬戸、倉橋島の早瀬を経由し、柱島を経て、津和地島へ上陸。昼食の後、怒和島からクダコ島を抜け、釣島で再び上陸し、灯台や旧灯台官舎などの見学のほか、おみやげ物販売も行う予定です。帰港は十七時頃を予定しており、丸一日をかけ、西瀬戸をご満喫いただく船の旅をご提供することとしています。

秋の一日を、瀬戸内海の穏やかな波に揺られながら、ご一緒しませんか。詳しくは、広報まつやま九月一日号のほか、協会ホームページ等でお知らせしています。

おいしいまつやまをつくりだす!

7月定例会を怒和島で開催した松山離島振興協会の面々が、その後合流し交流会にお招きしたのが『松山市民分ブランドをつくる会』の【忽那諸島ブランドイング班】のみなさん方十二人。ブランドイングとは、商品などのブランド化を図るための戦略的活動のこと。忽那諸島ならではの魅力的な商品をつくりだそうと知恵をしばってくれているありがたい人たちなのです。この日は「里島発見ワンデーツアー」ということで、安居島から島めぐりをスタートさせ、怒和島、二神島、睦月島と四島をめぐる行程の中で、昼食の場所に怒和島を選ばれたのはもちろん、協会メンバーとの交流を望まれてのこと。参加のみなさん方とは、おいしいものを囲んですぐにうちとけ、短い時間ながら内容の濃い交流となりました。



「里島発見ワンデーツアー」で怒和島を訪れたみなさんは、島料理に舌鼓を打ちつつ、楽しく自己紹介

さまざまな人たちとつながるということ。

市内各地から東京のど真ん中から、さまざまな人のさまざまな力が、今、忽那諸島に集結しようとしている。みなぎるパワーを受け、再び島が輝くために、しまびとが立ち上がる時が来た!



翌8月の定例会で交流したメンバーはさらにすごい人たち。何がすごいかというと、みなさん、わざわざ東京からお越しになりました。しかも四十二人。東京丸の内、出社前のビジネスパーソンを対象に開催されている『丸の内朝大学』その【ニッポン再発見クラス】の面々が、カリキュラムの一環として、瀬戸内海の各島を訪れ、私たち協会のメンバーとの交流会をもつたものです。今回、松山市を訪れたクラスは、沖縄、佐渡に続くシリーズ第三弾として瀬戸内海の島々を目的地に選び、しまなみ海道の島々や忽那諸島を訪問。クラス講師でツアーの事務局を務める古田秘馬さんの先導の下、誠に密なる時間を共有しました。メンバーは各島に分かれ活動する中で、すでに興居島の田村博文さんの民家食堂を訪ねていたり、交流会の後、中島へ渡って宝山亭に宿泊するという人たちもおられました。近い将来開催される大・島博覧会の開催に、力をお貸しいただけることでしよう。

楽しい島泊を演出する!

Presented by 松山子ども劇場21

夏のシーサイドキャンプ in 睦月島

平成二十一年度から数え四回
目の開催となる松山子ども劇場
主催の睦月島での「夏のシーサイ
ドキャンプ」。それまでの三年間
を野忽那島で開催していたこと
も加えると、子ども劇場と野忽那
島との付き合いは足掛け七年
にも及びます。公募での参加のた
め、もちろん参加する子どもたち
の顔ぶれは毎年変わりますが、中
矢理事長以下、子ども劇場スタッ
フのみなさんとは顔馴染みその
もの。特に、睦月島の理事である
田中治さんとはツーカーの仲で、
毎回、調理のお手伝いのほか、地
引網や磯遊びなどの体験を子ど
もたちに提供させていただいて



います。
そして、実に四回目の開催とな
る今回、新たな催しとして子ども
劇場が提案されたのが「夏祭り
納涼お楽しみ会」。カレーとおで
んの献立で、島のみなさんをご招
待しました。夜店では、輪投げに
射的、ヨーヨー釣りが準備され、
豪華景品がゲットできたほか、前
日に島の盆踊りをみっちり習
い、盆踊りタイムも実施され、子
どもたちに島の民俗を知っても
らう機会となりました。夏祭りの
シメはもちろん花火。鮮やかな火
花が瞬き、消え入るとともに、
島の夜は更けていきました。



また最終日には、初めての取り
組みとして、ボールネットづくり
に挑戦しました。漁師が得意とし
た麻紐での浮玉のネットづくり
にヒントを得、しまびとの指導の下、
ボールネットを編みました。
今年のキャンプでも、海水浴や
磯遊び、地引網など、海を思い切
りエンジョイするメニューをこな
すとともに、子どもたちは恒例の
海岸清掃を行い、地域と自然への
感謝を態度で示しました。
毎年の来島を心待ちにしている
という学校のそばのお年寄りの声
を聴き、島を愛してくれる応援団
の存在は大きいと感じずにはい
られません。これからも末長いお
付き合いをお願いします。

三津濱名物『珍踊り』ここにあり！ / 三津浜商店街

昨年から三津浜商店街に隣接の住吉公園で始まった『三津濱珍踊り』。新たな三津浜地区の展開を予感させる行事として、きっと定着していくことでしょう。8月25日、土曜日、第2回となる催しは、もちろん商店街名物のシーフード・バーベキューとの同日開催。新鮮な魚介を炭火でじっくり焼きながら堪能できるとあって満席の予約。飲み放題もあり、会場は熱気に包まれます。色とりどりの演者に負けず、田中戸の章友くんの司会はさらなる冴えを見せ、審査もいよいよ大詰め。優秀者が発表され、興奮の内に夜は更けていきました。しかして、三津濱に『珍なる者』の絶えることなし。



【地域産業部】

7月にうに漁が解禁となり、島ではうにの瓶詰づくりが最盛期を迎えています。ぼくのふるさとの釣島はもちろん、各島でつくられる瓶うには、それぞれの家庭の味付けの違いが出ていて、10本が10本、風味が違ってきます。

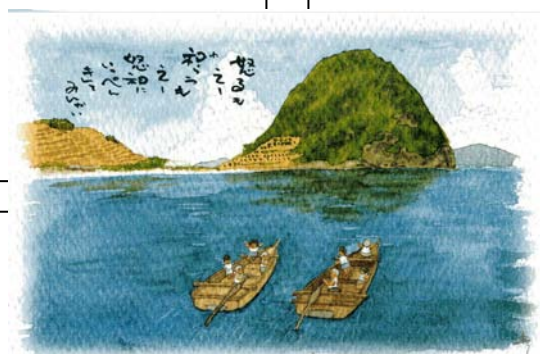
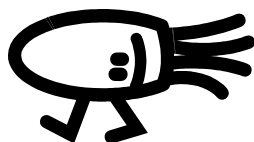
そして、次に来るのがモイカ、そろそろ一夜干しの出番でしょう。10月の大街道での「みんなの生活展」でお目見えの予定です。

これからも、おいしい島の味覚を多くの方に届けていきたいと思っています。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 石本憲三

TEL961-2033



【しまづくり部】

島の活性化に取り組んで早7年。松山離島振興協会ができた2006年当初は、「生活環境部」「教育振興部」という枠組みで活動を行っていましたが、2008年に協会の部改編を行い、両部を一つとし、名前も「しまづくり部」と改めました。

定住促進や空き施設の利活用など、部としての取り組みが求められる中、実際には、協会で行えることは少なく、行政との連携の下での活動が主となります。しかし、住民の真のニーズを把握できるのは、やはり住民であり、私たちが常にアンテナを張ってみなさんの声を伝えていかなければと思っています。みなさんの忌憚のないご意見をお寄せください。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 内藤 久司

TEL998-0606



忽那諸島の最新情報はHPチェックがいちばん！

<http://island-matsuyama.com/>

☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆